

幼児の言語研究一

—幼稚園児の話しコトバの実態—



西ノ内多恵子
伊東照子
村田和子

◇はじめに

本研究は個人研究ではなく、共同研究のかたちをとつております。昭和四十年に着手して現在まだその途上にあり、目的到達までには道遠しの感があります。

分担は三歳児を西ノ内多恵・四歳児を伊東照子・五歳児を村田和子が手がけております。私共で検討した結果・第一回目は、目的・方法、および基礎資料作成について、並びに基礎資料の一部紹介を、第二回目は、基礎資料にもとづく品詞分類・名詞の優勢化・名詞に見られる子どもの認識と発達等の名詞論を試み、第三回目は、名詞に次いで重要度の高い動詞をとり上げ、各発達段階における動詞の使用傾向および動詞の語原的分類の試み、等につ

いて述べることになりました。

今までには年齢ごとの分担で進めて来ましたが、今回は、名詞ながら名詞を担当する者が、お互いの資料を使って、発達段階を追いか考査する方法をとりました。

一、目的について

最終の目的は「幼児の基本語彙選定」にある。basic words 即ち「一つの言語において最も普通に用いられる基本的な語彙」が幼児の場合選定されれば、保育者にとって言語指導をする際の一つの手がかりが得られるし、また絵本や童話に書かれているコトバが年齢に応じたものであるか否かの判断の基準にもなり得る。さらには作家はそれら基本語彙をめどとして作品を創る場合も考

えられる。

大きいことはいいことだ、ではないけれどこのような大目的を

立て、それに到達する一段階として、私たちは幼稚園児を対象として語の採集に取り組み、分析と考察を試み、その結果をわざかずつではあるが、保育実践の中でコトバの指導を考える際の参考としている。

この小論のテーマを「幼児の言語研究」、副題を「幼稚園児の話しきトバの実態」としたのは、最終目的に対しても余りにもかけへだたつて、現段階をかえりみ、前記の「とき枠づけを行なった。

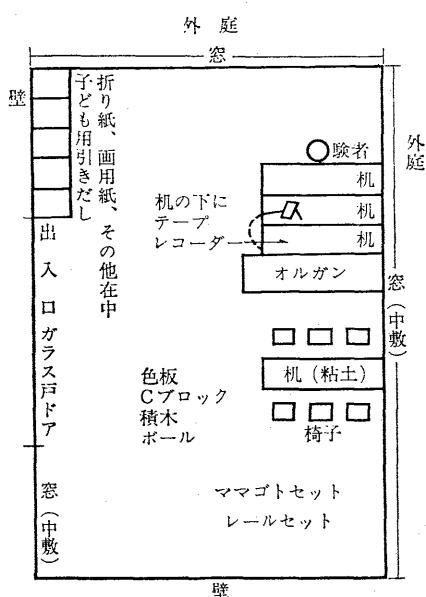
二、方法について

(1) 語を採集する一般的方法

幼児のコトバを採集する方法として次の諸方法があげられる。

- (B) 幼児語聴き検査カードを使用する方法
(C) 国語辞典のアの項から順に被験児に問い合わせる方法
(D) おとなとの会話を持ち、両者の会話の中から幼児語を採集する方法

(E) 子ども同士の自由な遊びの場面での会話を採集する方法
(F) 子どものひとり遊びの場面で発話したものを採集する方法



これらの中から私共は(E)の方法を選んだ。その場合に次の諸点に留意した。

(D)を選んで実施した時は、テープレコーダーをさげて園児の家庭に出かけて採集したりしたが、結局大変な煩雑さを伴うため、(E)を選んだ。そして、子どもたちが日常親しんでおり、活動の場でもある保育室に決めた。保育室には玩具のコーナーを設け、遊びの種類は子どもの選択にまかせた。だからある場合は、一つの遊びが三十分以上も続き、ある場合は、五分・十分刻みに遊びが変

化する場合もあった。一例として三歳児の場合、保育室での採集時の模様を略図で示すと39頁下段のようになる。

(2)時間の統一

日により多少の開始時間のずれはあるが、保育の終わったあと、二名ずつ特別に残し、採集時間は三十分とした。牛島義友氏・森脇要氏の語彙調査の場合も、採集時間は三千分と限定されており、この研究結果に比較して考える意味もあり、また子どもの疲労度も考慮したためである。そして、一人の子どもにつき、日を変えて、最低一週間は間隔を置き、三回採集した。

(3)採集時の験者の態度

子ども同士の自由な遊びによる自由な会話を建前とし、験者はできるだけ子どもの会話には参加しない態度、いわゆるノン・ディレクティブな方法を貰いた。たとえば「先生はここで勉強しているから、あなたたち二人で遊ぶのよ」など、あらかじめ子どもと約束を交わし、それでも何度も何か話しかけられるので、その場合は、相槌を打ったり、簡単な受け答えにとどめた。

(2)語を採集する具体的方法

「風の中の羽のように」空間に消え去っていく発話や会話を、どのような手立てで文字化するか、私たちは用意周到を期して、録音法とメモ法を併用した。略図に示したようにテープレコーダーを机の下にかくし、マイクのみ机上に載せ、なるべく機械の方

No. 1	
M	あたしもネ
T	イヤーだ！
M	これおさしみ
T	え？ おさすみ
M	おさすみじゃない おさしみ
T	おさすみ？
M	ちがうの おさしみ
T	c. t. c.
M	
T	
M	
T	
M	
T	

に注意が向かないようくふうした。一方、記録用紙を用意して、最初はメモ程度に筆記したが、文字化する場合、どうしてもテープのコトバが聞きとれないことがあり、その際にメモと照合すれば非常に役立つことを発見し、以来、速記とまではいかないが、できる限り筆を走らせてメモとする方法を行なった。記録用紙は、わら判紙を縦にし、あらかじめ二人の子どもの頭文字を記入し何枚か用意すると便利である。

三、被験児について

東京・杉並区・白梅幼稚園に在籍する年少、年中・年長児を対象とした。年少組については全員を対象としたが、年中組については、語を採集する場面に適応が早く、発話、会話が比較的スム

トズに行ないやすいと考えられる子どもを五名選んだ。

年長児は追跡研究のかたちをとり、三歳児の時に被験児となつ

た子どもの中から五名選んだ。五名という割り出しへ、私共の研

子あからかちやん

ハハン———そうするとあかちゃん

(c) 一回の録音時に二名の子どもを扱つたので、文字化する際

か否か」の質問を出されたことにより、その時点でIQ調査の可

能な子どもについては早速実施したが、全員にわたっていない。

(卒園等のため) この点も今後は不備のないよう調査したいと考
えている。

四、基礎資料作成について

録音した語を文字化して基礎資料を作成する。その際、次のようにうな諸手立てを講じたり留意点とした。

(D)発音されたものはすべて書き写す建前なので、「ハハハハ」という笑い声や「タターン」等の擬声・擬音・擬態語もすべて表記した。

(回文、いわゆるセンテンスは、話している時に息の切れなど、
ろで横線を引き一つの文とした。 (註①)

(A) テープから聴き取ったコトバを一語一語正確に写し取った。たとえば、「センセー」というところを「チエンチエー」と発音してあれば、「センセー」と訂正して少し取らずに発普通り「チエンチエー」とする。

(B) メモと照合しても、どうしても聞き取れない不明瞭な箇所は次のように～～～線であらわし不明のままとする。

例

M子 どつち？—あたしこれ—あたしの—
(F)一方の子どもが発語して、相手の子どもがすぐこれを受けた
い場合、つまり会話がスムーズに流れない場合は、表記する場合
に、行間に▽印を付し、何分何秒など時間をメモした。

(G)同じ子どもの場合においても同様の印を付した。

(H)右に関連することであるが、一音一音に明確に力を入れて、途切れ途切れにというかゆっくりしたテンポで発音したものについては、その音と音の間に印を付した。

(例)

「あ り り が ど う 」

(I)録音したものを文字化する場合、発音上の未分化なかたちが多く見られるので、漢字は一切使用せず、平仮名、もしくは片仮名で表記した。そして後日整理する場合の参考のため「おはな」といった場合、鼻を意味する「おはな」なのか、植物の「おはな」なのか判断に迷わないよう、その語の傍にかつことを付して

(鼻)あるいは(花)と記入した。これは一見、おとのんの感覚では、文章の前後の脈絡から判断して、すぐその意味が汲み取れる

ような気がするが、低年齢で語の獲得が激しい時期は、ほんの少しの似た音にすぐ刺激され、全く意味の違う単語を飛躍的に発

話する場面が多いので些細なことのようだが必要性を感じている。

(J)また同様にして、遊びの場面が、五分、十刻みに変化する場合は、何の遊びをしているか行間にメモをしておくと参考になる。当座は覚えていいるようでも、長い年月資料をあたためている場合には、記憶も薄らいでしまうので、ぜひこれも必要である。

(K)録音時間の三十分が過ぎた場合は、全く機械的に、そこで文字化するのを打ち切った。たとえ一文の場合途中でもそこでとどめるようにしている。

(L)文字化する作業が終わると、全体に、一分ごとの時間帯を記入して、一分間にいくつ発語するか等がわかるようにした。

これらの留意事項の中には語彙の研究に直接かかわらない部分もあるかと思うが、研究テーマを発展的に考えて、音声について、あるいは文章構造について考察する場合にも、基礎資料を使えるように配慮したためである。

(M)以上のようにして一回分の基礎資料ができ上がり、表紙に通しナンバーを付して、表紙をつけて綴じ、表紙には次の諸点を記入しておく。

- ・被験児の氏名
- ・被験児の生年月日
- ・被験児の出生順位
- ・被験児の家族構成及び親の職業
- ・録音期日
- ・録音場所(保育室名)
- ・録音時間(PM二時~二時三十分等)
- ・録音の回数(一回目・二回目・三回目等)
- ・被験児の表記の色わけ書き

(M子・赤インク) (T子・青インク)

二人の子どもの会話を文字化したものの一冊として綴じる。

これらは、その都度、表紙に記入したのであるが、今後、大量に調査する場合は、植物採集をして標本を作る場合に、台紙に貼るラベルのようなものを参考として、ガリ版刷りでよいから作っておき、使用すると手間がはぶけるように思う。

◇基礎資料作成後の雑感

録音したコトバを文字化する際に感じたことであるが、子どもの状況、遊びの内容、コトバの癖等を熟知している者が直接採集中当たつた方がもつとも望ましいと思う。たとえば自分が全然知らない地域の幼稚園や保育園に出向くとする。そこで録音し、一方自分は子どものコトバのメモに必死で、子どもの遊び場面とは余りかかわりなく音声のみをメモする。さて帰って文字化する際、もし次のような会話に出くわしたら、すっかりとまどつてしまい、記録の信頼度を疑いたくなってしまふ破目におちいりそうである。

(例)

S夫　だめだよーそのワッショイのすずをとっちゃあー

K男　えッ? —

S夫　かぶのすずをとっちゃあーだめじゃないか—ワッショイができるないよー

右のワッショイ、鈴、かぶの関連性に迷い、誤聴ではないかと迷ってしまうであろう。これは冬、運動不足になることを恐れて三歳児たちに大きなかぶをおみこし代りに作ってやり、かぶに鈴をつけて、ワッショイ、ワッショイとかつぐ遊びを取り入れたもので、験者の自分が担当しているからその関連性はわかる。

また次のような場面もあった。ロボット遊びが続いている場面で、

あッ　ごじゃーごじゃがあつたよー

というコトバが突然テープレコーダーからとび出して来た。

「ごじゃ」なる名称は一体何であろうか。解釈に苦しんだ。ようやく保育室の隅に、畳の代りに置いてある「ゴザ」であることがわかった。このようなむずかしさがあるので、子どもをよく知っている人が、採集中当たつて文字化するのが望ましいように思う。

次に文字化する際にテープを何回、いや何十回逆回転させて聴いても聴きとれぬコトバがある。音量を最小に絞って、耳をテープレコーダーにぴたりと当てて聞いたり、音量を最大にしてみたり、回転をスローにしてみたり、仲間を呼んで来て、人を達えて聴いてみたりして苦労する。ところが日を変えて、聴いてみる

と、すらすらとそのか所が理解できる。このように、ほんの一か

所のためにこざることもしばしばある。だが、聴きとるという耳の訓練を積むと次第にその苦労も少なくなる。だから最初は練習の積りで「慣れ」を早く身につけ、ある程度、習熟してから資料の作成に入った方がよいと思われる。

私たちの場合は、どうとうテープレコーダー一台を何度も修理に出しては使いこわしてしまった。

(註④) 「幼児の言語発達」(愛育研究所紀要・昭和十八年)

において、牛島義友氏は文を数える基準として、次の三つの場合を立てておられる。即ち、

①文法的に一文として完成している場合は一文と数える。

(例)

「土人だ」—これ鈴野様の御父様そつくりだ(同じ顔だ)

②休止によって切られている場合は一文として完成していないくとも一文と数える。

③複文と従属文は二文として数える。

(同著P59より)

これらを参考として息の切れたところで横線を引き一つの文

とした。

以上で第一回は終わりとします。最後に基礎資料の一部紹介をさせていただきます。前述しましたごとく、実際は子どもの頭文字は記入せず、インクで色わけしますが、印刷の都合上、ここでは特に頭文字を付しました。

◇基礎資料の一部紹介(三歳児)

I児 やーい (積木であそんでいる)

Y子 こっちにあかちゃんおるねー ちょっととまってよオー

I児 あれエ そうでした アチャバーでした そ・そ・そーで

したー

Y子 なに? そ・そ・そーでしたー

I児 そ・そ・そーでしたー

Y子 かいだん(階段)みたいになつたね あーうー

I児 ころんだら ここんどこお(置)いたんだ ぼくパビキュ

ール ここんどおいてやろう ぱくこんどねえ こやつ
てちゅるるー ちゅるるー ちゅるるー おもしろいよせ
んせい こやつてちゅるるー こやつてちゅるるー こや
つて こやつて こやつて まだやつちやアダメ なんだ

よオーー

みてるの きょうの まつつかアー

I児 まだだめなんだーまだー

Y子 まだ?ー

I児 きみらがやつちやだめなんですよーまだー

Y子 みてるのーいったいまだーへこわしちゃったからつくつー

てるのー

I児 へへーセンセこれいくよッー ピューンー

(積木を汽車に見たてて歌い出す)

〜キチャキチャーチュッポチュッポー

Y子 〜チユツボチユツボー チユツボツボー 〜ばくらをのせてーチ

ユツボー チユツボー チユツボツボー はしれよー はしれよー

I児 〜まどのそとーけむりもとぶとぶー

Y子 〜まどのそとーけむりもとぶとぶー

I児 〜いえもとぶー

Y子 〜いえもとぶー はしれー はしれー はしれー

I児 〜てつこううだー てつこううだー

Y子 〜てつきようだー てつきようだー

I児 〜うれしいなー

Y子 〜うれしいなー

Y子 まねするなよー

I児 ぱくがはじめうたってのにーきみがどちゅうからーうたー

いだしたんだよー

Y子 センセーー

(帽子かけを順番に見ていく)

Y子 ねーねーここが太郎くんでねー ここが直美ちゃん ここが

都ちゃん ここが浩子ちゃん ここが佳子 ここが重雄ちゃん

ここが英くん ここが奈ちゃん ここが良ちゃん あれ?

ここにだれだらうなッ? ここだれえ? シェンシェー!

①(順子ちゃんよ)

Y子 順子ちゃんーふんふんー

I児 それぼくのおとなりの順子ちゃんですよー へへエーーば

く順子ちゃんだーいすきー

Y子 ここにだれ?

I児 だれとだれと?

Y子 ここはだれだー

I児 でもよー子ちゃんだつてべつにだいすきーべつにだいすき

だよー

Y子 ここはだれだけー 原裕志くん はー 原裕志くん

だよー (後略)

註②(漢字は一切使用しないと前述しましたが、人名について用いました。人名は語彙数の中に数えない方針です)

(西ノ内記)